

外国籍児童ら エコ学ぶ

ボトル再生、温暖化防ぐ一歩



可児でリサイクル授業

市は22年、サントリーと協定を締結し、バローホールディングスとも協力し、回収したペットボトル全量をペットボトルへと再生する「ボトルtoボトル」事業

カーボンニュートラルの実現へ、市民らの行動変容に向けた啓発を進める可児市は28日、日本に來たばかりの外国籍の児童生徒が通う「ばら教室KANI」（同市土田）で授業を行い、ペットボトルのリサイクルの大切さを教えた。

（中村芳紀）

業を始めた。一方、市民には途上国出身の人たちが多いことから、子どもから保護者、地域コミュニティへとリサイクルへの意識を高めてもらおうと授業が行われた。

14人の子どもたちを前に、市環境課の坪内豊さんと福田真弓さんが講師となり、地球温暖化の進行でフィリピンが巨大台風に襲われたり、ブラジルのアマゾンの大河が枯れるといった影響が出ている現状を紹介。温暖化を防ぐ方策の一つにリサイクル推進があると紹介した。

子どもたちは、リサイクル工程を紹介した動画を見た後、渡された飲料のペットボトルで実際に体験。ラベルを剥がすのに苦労していたが、回収ボックスに入れると笑顔を見せた。

ラベルを剥がしたペットボトルを回収ボックスに入れる体験をする子どもたち＝可児市土田、ばら教室KANI